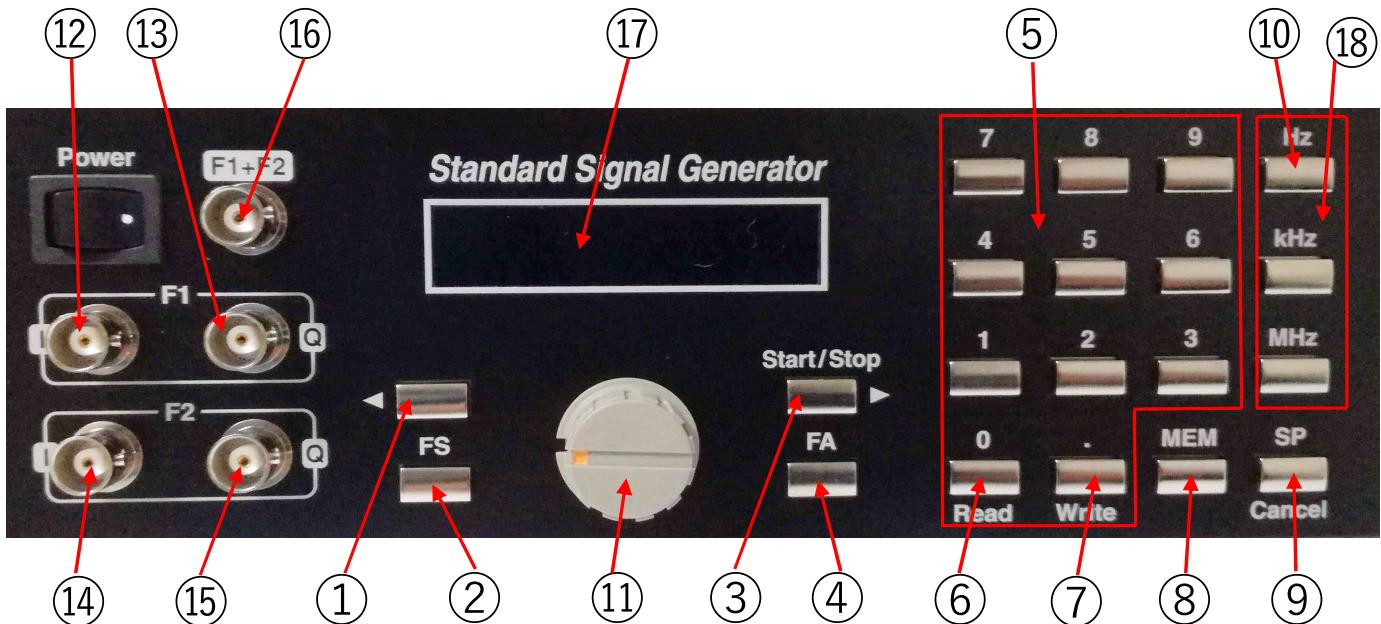


S S G 取扱説明書

2021/01/02

【各キーの名称と機能】



① ← キー

桁シフト（左）キーで、周波数表示の桁位置が左へ移動します。フラッシングしている位置で⑬のロータリーエンコーダーを回せば、その桁で周波数が増減します。

② FS (Frequency · Select) キー

F1を制御するかF2を制御するかを切り替えます。押す毎にF1←→F2と切り替わります。又、もう1つの機能としてF1／F2各出力をONにするかOFFにするかを、このキーで制御します。0.5秒以上押しつづけていると、X←→Oと交互に切り替わります。

③ → キー

桁シフト（右）キーで、周波数表示の桁位置が右へ移動します。小数点以下1桁までの移動となります。又、もう1つの機能としてスイープ機能モードで、"Start"させたり "Stop"させたり、スイープ中に押すと、Start←→Stopを繰り返します。

④ FA (Frequency · Amplitude) キー

d Bm表示されている場所に点滅カーソルが移動し、⑪のロータリーエンコーダーにより表示されている周波数の出力振幅を制御します。-30 d Bm～+8 d Bmの範囲で1dBmづつ制御出来ます。

⑤ テンキー

ダイレクトに任意の周波数を入力したり、各パラメーター値を入力するキーです。 "Decimaru Pointo"入力も含みます。

⑥ Read キー (テンキー0と共に)

メモリーNOを設定してデーターを読み出すためのキーです。

⑦ Wite キー (テンキーと共に)

表示している周波数、出力値をメモリー設定NOに書き込むためのキーです。

⑧ MEM キー

メモリーへの書き込みや読み出しを行うために、メモリーモードへ移行させるためのキーです。再度押せばノーマルモードへ移行します。

⑨ SP／Cancel キー

2つの機能があり、スイープモードへ移行させる機能と、周波数や数値入力時に、意図する値ではなく誤った数値を押した時に、値をキャンセルさせるためのキーでもあります。

⑩ Hz キー

通常は⑯キーと共に、テンキーでダイレクトに周波数入力した時に、最後に単位で決定します。Hz／KHz／MHz。もう1つの機能として、スイープモードでスイープタイムを入力する時に、単位=秒で決定します、この秒キーとして使用する時に”Hz”キーを使用します。

⑪ ロータリーエンコーダー

フラッシングしている桁で周波数の増減が出来ます。又、FAモードでは出力振幅（dBm）の増減ができます。

⑫⑬ F1 (I) ／F1 (Q) 端子

F1の周波数が出力します。I／Qは90度の位相差をもった信号として出力します。
但し、F1=0 の場合で、Xの場合は両方共OFFです。（50Ω出力）

⑭⑮ F2 (I) ／F2 (Q) 端子

F2の周波数が出力します。I／Qは90度の位相差をもった信号として出力します。
但し、F2=0 の場合で、Xの場合は両方共OFFです。（50Ω出力）

⑯ F1+F2 端子

F1とF2が合成された信号が出力されます。2信号出力として使用する場合で単信号（F1またはF2のみ）で使用する場合はF1又はF2専用端子から使用することが好ましいです。
(50Ω出力)

⑰ LCD

各情報を表示する窓です。

【メモリー読み出し機能】

- ① "MEM"キー⑧を押してメモリーモードにする。



- ② メモリーの箱としてはM-Lに (1~9) の9チャンネル分、M-Uに (1~9) の9チャンネル分 計18チャネル分ある。PSN調整でL列とU列のポール周波数を記憶させておいて、調整時に読みだして使用しやすいようにL列 9 ポール分、 U列 9 ポール分の書き込み読み出しが出来るようにしている。メモリーモードに入ったらL列の箱を読み出すのかU列の箱を読み出すのかを選択する。L列は ← キーを押す、U列の場合には → キーを押す。例としてL列を呼び出す。



- ③ L列の (1~9) 番号を選択する。例えば"1"を呼び出す。



- ④ 最後に"Read"キー⑥を押して、記憶されている周波数を読み出す。デフォルトではAFPSN8段のポール周波数が記憶されている。M-L1にはL列1段目の5.6782Hz。



"Read"が表示され、F1の出力端子に5.6782Hzの8 dBmが出力される。



【メモリー書き込み機能】

メモリーモードにする前に記憶させたい周波数と出力レベルを設定しておく、F1/F2いずれでもOK。読み出し機能の③までは同様の操作である。

- ① 最後に"Write"キー⑦を押して、この例ではF1の1KHz、8dBmをM-L1へ書き込みます。



"Write"が表示され、F1の1KHz、8dBmがM-L1に書き込まれ、ノーマルモードとなる。

【スイープ機能】

"SP"キー⑨を押すとスイープ設定モードとなり、各パラメーターを設定し、▶キー⑩を押すとスイープ動作がスタートされます。各パラメーターとしては、スタート周波数(Sta)、ストップ周波数(Stop)、スイープタイム(Tim)の値を設定する。

- ① "SP"キーを押す

スタート周波数として任意の周波数を入力する。



- ② "SP"キーを押す

ストップ周波数として任意の周波数を入力する。



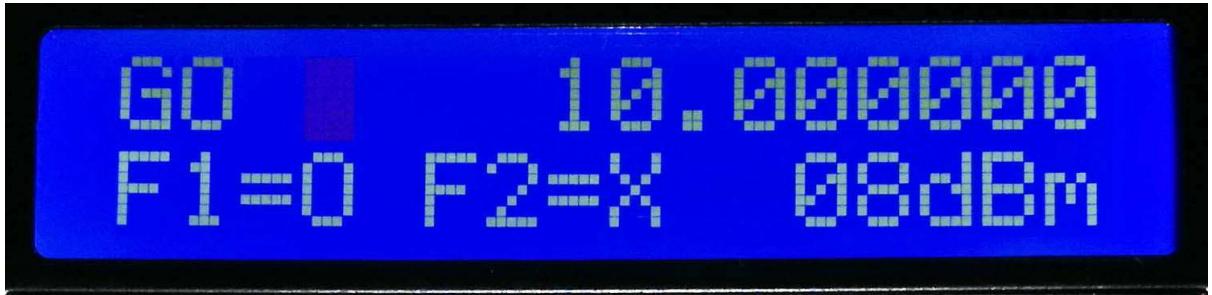
- ③ "SP"キーを押す

スイープタイムを設定する。任意の数値で単位は秒、最後に秒"Hz"キー⑪で決定。



④ スイープをスタートさせる。

Sta/Stp/Timなどのポイントにおいてでも  キー③を押せばスタートする。



1往復を約設定されたスイープタイムで、スタート周波数←→ストップ周波数のスイープ動作を永遠とつづける。

⑤ スイープ動作を停止させるには

スイープ動作中に  キー③を押せば停止する。この時の表示はスタート周波数入力表示モードとなる。

⑥ スイープ機能の表示モード

"SP"キー⑨を押す毎に表示モードがシフトしていく。

1回目 = Sta スタート周波数入力表示モード

↓ ←

2回目 = Stp ストップ周波数入力表示モード

↓ ↓

3回目 = Tim スイープタイム入力表示モード

↓ ↓

4回目 = スイープモードを終了してノーマルモード

↓ ↓ —

ノーマルモードへ移行するには4回目で行う。

【最後に】

万一、動作中に表示や動作が異常となった場合は電源=OFFして

" キー① + " キー③ を押しながら電源=ONにします。初期化動作。

